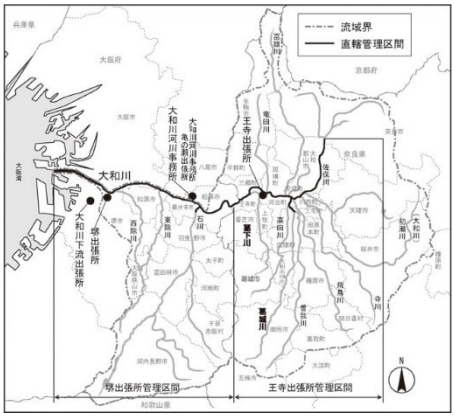
日本あちこち河川遡行記（第２５４回）

奈良-1. 大和川（その 4）平成 31 年 1 月 16 日（水）晴



01.大和川流域図

足は再び東に向かう。大和川最後の区間を目指し近鉄大阪線の大和朝倉駅に降り立つ。駅は山の斜面の途中に有り、橋上駅の北側は前回歩いた谷間で南側の先にはニュータウンが有る。ここが大和平野（奈良盆地）の東端で、近鉄はこの先急こう配が連続する山間部に入る。

02.大和朝倉駅で下車

前回歩いた同じ道を 1㎞あまり歩く。ナポ君の幟が続く家並みを進み、川沿いの道に入る。最初の橋を見ていると近鉄特急軍の女王「しまなみ」が急こう配を登って伊勢志摩に向かっている。王は名阪特急のアーバンライナーである東に進み次の橋を見ていると今度は見慣れた塗色の特急が 33.3‰の坂を登って行く。一般車両よりも色とりどりの特急の方が多いぞ。この辺りの 10 時台のダイヤを見ると下りは一般車が 3 本に対し特急が 6 本（難波発 4 本、京都発 2 本）も有る。東海道新幹線は同じ塗色の列車しか走っていないが、近鉄大阪線の華やかなこと！写真を撮るならここでしょ！

03.近鉄特急群の女王「しまかぜ」が伊勢志摩へ

04.見慣れた塗色の特急も通過

伊勢街道の旧道を歩いて行くと車庫にいる車のナンバープレートがご当地ナンバーになっている。奈良バージョンだ。絵柄を見ただけで奈良と分かる。妻子は居るのかな？

05.ご当地ナンバーには鹿と五重塔が

道の左側に白山神社の鳥居と社名が彫られた石柱が立っている。石畳の参道と社殿の間に国道が割り込んで横断している。失礼なやっちゃなー。川を離れ神社に向かう。国道を横断しすぐの神社の入り口には「拍瀬朝倉宮」の解説板が有る。朝倉宮は第 21 代天皇である「雄略天皇」の皇居が有ったとされる所で、この白山神社あたりがその宮が有ったのではないかと言われている。大和政権の基盤を武力で確実にした天皇である。

また神社の境内には万葉集発祥の地の石碑と雄略天皇のお歌の歌碑が有る。その万葉集の第 1 巻の頭の句は雄略天皇作で有る事からこの地が発祥の地と言っている。桜井駅前に有った四つの始め（仏教、相撲、芸能、万葉集）の一つがここである。

06.白山神社は旧道から見るのが正当だ

07.神社の入り口には「拍瀬朝倉宮」の解説板が

08.万葉集発祥の地の石碑が立っている

09.雄略天皇のお歌が石碑に

神社を過ぎると旧道が国道に合流し、狭い歩道と歩道のない区間を東に進む。南側に大和には珍しい土産寿司屋が有るので立ち寄る。奥に柿の葉寿司が有ったので土産に 7 個入りをお買い上げ。鯖に鮭を混ぜた組み合わせもあるが鯖だけの物にする。

10.ズラリ並んだ柿の葉寿司

出雲地区に来ると「出雲」と書かれたバス停が有る。大和に出雲とは、大和朝廷が出雲を平定した時に連れてきた末裔が造った集落かな？

これぞ奈良の派出所という建物が有る。手元の地形図、道路地図にも載っていないのでごく最近できたのだろう。

11.大和に出雲が有るぞ

12.この派出所は奈良らしいなー、賽銭が無い

やがて長谷寺の西の入り口となる参道に大きな石柱が鎮座している。5m は有りそうな巨大な物で真言宗豊山派総本山だぞーと言っている。

国道 165 号が川を越える古いコンクリート橋は△と評価する。そろそろ対応策を施さないと・・。次の近鉄長谷寺駅からの参拝客が通る橋の名前は「参急橋」と書かれている。近鉄の前身の社名は「参宮急行電鉄」で、その一般名「参急」を採用している。地元の参急に対する気持ちが入っている。「サンキュウー」。

13.長谷寺門前町の入り口

14.「参急橋」、近鉄の前身「参宮急行」の名前が橋名に

川と橋の調査はここまでとして、観光客として参道に向かい寺を目指す。東西に長く続く門前町の通りには多くの店が軒を揃えて並んでいる。古い漢方薬の店の前には見慣れた胃腸薬の「陀羅尼助丸」が売られている。我が家にも有りまっせ！

15.「陀羅尼助丸」、馴染みのある胃腸薬が

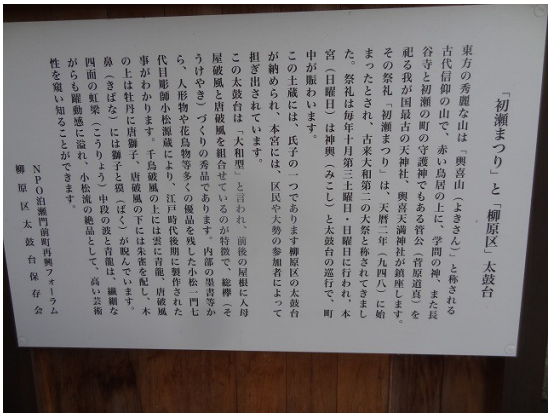
南側には「長谷山口坐神社」へ向かう石段と川を越える橋が有る。神社は対岸の低い丘の上に有るようで、入り口から少し東に進んだところには神社の「遥拝所」が有る。遥拝所とは凄い神社である。普通遥拝所とは神社を遠く離れた所から拝む所であるが、ここは目と鼻の先に有るでないでがだー。

16.神社は大和川の橋の向こうに

17.神社の遥拝所が有るぞ

参道にはいろいろな店が有り楽しく歩く。道の左側に初瀬を守る天満神社の「初瀬まつり」に登場する太鼓台の収納庫が有る。扉の前には祭りを紹介するポスターと説明が貼ってある。太鼓台といえば香川県西部の観音寺、豊浜、愛媛県東予の西条などが有名であるが、大和にも有るのだな。これまで中四国、近畿地方を歩いてきたが、祭りで太鼓台を使用する地域と一致している。

18.初瀬の祭りの太鼓台の収納庫



「初瀬まつり」と「柳原区」太鼓台

東方の秀麗な山は「輿喜山（よきさん）」と称される古代信仰の山で、赤い鳥居の上に、学問の神、また長谷寺と初瀬の町の守護神でもある菅公（菅原道真）を祀る我が国最古の天神社、輿喜天満神社が鎮座します。その祭礼「初瀬まつり」は、天暦三年（九四八）に始まったとされ、古来大和第二の大祭と称されてきました。祭礼は毎年十月第三土曜日・日曜日に行われ、本宮（目曜日）は神輿（みこし）と太鼓台の巡行で、町中が賑わいます。

この主役には、氏子の一つであります柳原区の太鼓台が納められ、本宮には、区民や大勢の参加者によって担ぎ出されています。

この太鼓台は「大和型」と言われ、前後の屋根に入母屋破風と唐破風を組合せているのが特徴で、総欅（そうけやき）づくりの秀品であります。内部の墨書等から、人形物や花鳥物等多くの優品を残した小松一門七代目彫師小松源蔵により、江戸時代後期に製作された事がわかります。千鳥破風の上に雲に青龍、唐破風の上は牡丹に唐獅子、唐破風の下には朱雀を配し、本鼻（きばな）には獅子と狗（ぼく）が睨んでいます。四面の虹梁（こうりょう）中段の波と青龍は、繊細な彫（きざ）は、小松流の絶品として、高い芸術性を窺い知ることができます。

NPO沿瀬門前町再興フォーラム
柳原区太鼓台保存会

19.「太鼓台」と言えば西讃と東予が本場だが・・

少し東に進むと今度は右側に吉野杉などを使った繊細な木工品が陳列ケースに収められている。展示販売、木工教室をしている店である。ユー達が喜びそ

うな作品である。

反対側の蔵のような建物の先に同じような雰囲気の建物は何と銀行であった。阿波の吉野川を歩いていた時の脇町の阿波銀はもっと大きな和風建築であったなー。

20.杉などで造った木工品を展示、販売

21.和風建築群の中に何と、銀行が有った

更に進むと酒屋の店の中にこちらに向かって地酒のいろいろな物が並んでいる。食指ならぬ飲指が動くがここは我慢して前に進む。すぐ横には板塀に囲まれた家がひっそりと佇んでいる。先日の日野川に続いて今日も登録有形文化財に出会う。こちらは街中なので大きさでは伯耆の勝ちだ。

22.地酒も有るぞー

23.今日も登録有形文化財に出会う

東に向かう商店街（参道）の先には「天神山（H=455m）が街並みを見下ろしている。山は手付かずの森、「与喜山暖帯林」となっている。長谷寺の寺領で天然記念物である。

24.東西に続く参道と商店、彼方に天神山が　　25.こちらは布から作った財布などを販売

右、左と目を移して進むと紫色の暖簾が掛かった店が気になる。店先に小さな販売品のメニューが置いてある。布製の小物を売っているようだが店には見えましぇん。

反対側には白髭神社の鳥居と石段が北に延びている。長谷寺の真南の丘の上に神社が有るようだ。参道の突き当りの曲がり角に来ると与喜山の中腹にある天神社に向かう石段と川を越える橋が見える。神社だらけの参道である。

26.参道の北側には白髭神社が　　27.参道の突き当りにも神社が川向こうに

大和川はここで東からの流れが北からの流れに変わる。天理市東部の笠置山地から流れて来る。参道も流れに合わせて北に方向を変える。道幅が狭くなり参道らしくなる。土産物を売る食堂が並び、名物の草餅を売っている店もあるそうめんと鯖寿司が多い。参道から東に小道に入ると橋の上から南面する長谷寺の伽藍が見える。一番上が巨大な観音像のある本堂である。仁王門から本堂までは階段状の登廊が続く。

28.初瀬の名物は「草餅」だが

29.長谷寺の本堂はあの上にある

寺の入り口の広場には参道を兼ねた商店街の地図が有る。ちゃっかりしてまんなー。境内に入ると凛とした雰囲気が漂う。長谷寺の成り立ちが書かれた縁起文も有る。仁王門迄の石段をふうふう言いながら登り門前の入門料金所の前で暫し考える。この先まだ 70m ほど登るのは心臓がノーと言っているのでここで U ターンし寺の牡丹はまた別の機会に見ることにする。

30.初瀬の商店街の地図が寺の入り口に

31.長谷寺の参道入り口

32.寺の歴史が

33.仁王門の前で終わりとする

来た参道をゆっくりと戻り長谷寺駅に向かう。駅は街中から 50m ほど登った山腹に有り、階段と坂道をゆっくりと歩いて行く。近鉄大阪線は桜井を出ると大和川と淀川の支流の木津川のそのまた支流の「宇陀川」との分水嶺を急こう配で越えて行く。昭和の初めに 33.3‰が連続する線路を建設し電化したので電車は
100㎞の速度で走行した。更に先には鈴鹿山脈（布引山地）を越える青山越えが有り、その急登はもっと厳しい。その急坂の途中に長谷寺駅が有るので麓の遥か上に駅が出来た。駅に着くと直ぐに上本町行き急行がやって来て乗車。電車は乗ったことのない座席変換装置付きの車両で、一度乗ってみたかった箱である。通常は他の電車と同じ一列シートであるが、閑散時には長距離列車のように座席が線路と直角になるようになっている。京阪は座席が上下に移動するが、こちらは座席が平面で直角に回転するのである。今は閑散時なのに一列なので通りかかった車掌に聞くと、「今は休日の限られた列車だけの時に転換します」とのことである。せっかくの装置が勿体ないなー。

34.坂道を登り長谷寺駅に到着

35.この車両の 2 名毎の座席は直角に回転する

鶴橋で奈良線の電車に乗り換え難波に向かう。着いたホームの向かい側にかつて何度も乗った名阪特急が発車を待っている。近鉄独自の機能的で美しいシュリーレン台車も久しぶりである。独のミンデン、仏のアルストム、そしてスイスのシュリーレンが 3 大台車であった。

36.何度も乗った名阪特急が難波駅に

地下 1 階のコンコースにはユーのための案内デスクと専用切符販売機、タッチパネル案内板がある。ここから奈良、京都、飛鳥に日帰りで行けるので「ユー達を逃せんへんでー」。お伊勢さんと志摩は路線図から外れているぞ。神宮こそ日本人のルーツなので是非行ってほしい所である。

37.難波駅コンコースにはユーのための案内デスクが

38.ユー専用の切符自動販売機

39.タッチパネルも装備している。稼がなくっちゃー

帰りの新幹線まで時間が有るので高島屋に立ち寄る。地下１階の食料品売り場の店内は中国人らしきユー達がイッパイいる。ホテルでの夕食にデパートの美味い総菜を買っていくのだろう。難波の高島屋はユー達の買い物の恩恵ナンバーワンだろう。

魚売り場には高級魚がズラリと並んでいる。1匹6万円以上もする「クエ」もいるぞ。この値段では喰えんぞ！今年の初セリで売られた大間のマグロの3億円はキチガイ沙汰であり、マスコミは無視するべきである。お米売り場には2キロ3千円もする米が有る。食べ物も格差が大きくなっている。

40.高級魚のオンパレードやー

41.米も高級品が続々と並んでいる

帰りは１週間前にネット予約の「おとなびWEB早特こだま指定席」が取れたので新幹線利用の大名紀行となった。乗車券だけの値段の３分の２の値段でこだまに乗れる有難い切符である。販売数が少ないので朝の上りは取れない。変更はできないので雨が降っても槍が降っても出かけなければならないのだ。難波から新大阪迄乗りなれた地下鉄に乗り帰路につく。

本日の歩行距離：8.2㎞。調査した橋の数：11。

総歩行距離：10,255.9㎞。総調査橋数：12,817。

使用した1/25,000地形図：「初瀬」（和歌山１号-2）